

2021年度 市野与進こども園 事業報告書

新型コロナウイルス感染症の対応も2年を経過し、ウィズコロナの教育・保育が日常となり、いかに感染から身を守るかと同時にコロナ禍における園の在り方を学び、これからどうしていくべきかを園全体で考え、保育の再構築を行いながら過ごした1年でした。園内では基本的な日常の衛生管理をしっかりと行うことを心掛け、検温や消毒、園児の同居家族を含めて体調不良時の入室制限等保護者からの協力も得ながら感染拡大防止策を講じてきました。また、園児に対しては映像を用いて感染の仕組みや手洗いや換気、マスク着用の大切さを伝える等、園児自身が自分で自分の身を守ることができるよう日々の保育の中で丁寧に伝えています。3歳未満の低年齢児に対しては、園児の手が触れる部分やおもちゃの消毒や換気をこまめにする等『保育所における感染症対策ガイドライン』を踏まえた対応を基本としつつ、健康観察や視診を丁寧に行ったり、クラス間の交流を最小限にする等、感染予防対策の徹底を心掛けました。また、コロナウイルスまん延防止等重点措置期間中は浜松市の保育料の返金（還付）措置もあり、全園児の1/3程度の家庭から家庭保育の協力を得ることができました。こうした保護者からの協力や職員のたゆまぬ努力があり、園内での感染拡大は見られませんでした。

このような状況の中、園行事を日常の保育の延長と捉え、目的やねらいを明確にした上で感染予防対策を講じて実施することができました。行事当日の子どもの様子だけでなく、行事を迎えるまでの保育の過程や子どもの姿を日々丁寧に保護者に伝えることを意識してきました。そして、行事の具体的な変更点については事前に保護者に説明し、理解を得るように努めました。こども園最終学年の年長クラスの保護者に関しては感染対策を十分に図り、予定していた行事には参加していただくことができました。

感染対策とともに、子どもの命を守る、発達を保障するという保育本来の目的が両立し、整合性のとれた対応を心掛けた一年でした。

在園児数については、4月当初162名でスタートし、3月には定員191名に対して173名の在籍数となり、平均入所率は88.4%となりました。

【重点目標及び施策への取り組み】

1. 「教育・保育」「保育教諭」の質の向上を目指す

- ① 子どもをより丁寧に見て「子ども主体の保育」を実践するためにフォトカンファレンスやドキュメンテーションを通して、職員間で学びを深めることができた。
- ② 行事の目的や意義を改めて見直し、同時に「子ども主体の保育」や「あそび中心の保育」の観点から行事の見直しを行った。子どもの興味・関心から子どものアイデアを取り入れながら、職員と子どもが共に準備を進めることで一つひとつの行事への思い入れや達成感を高めることができた。

2. 働きやすい環境づくり

- ① コロナウイルス感染対策を図りながらの保育が日常化し、職員の心身への負担は今まで以上となっている。職員が少しでも安心して業務に従事できるよう、早い時期に1回目2回目のワクチン接種を職域接種の枠で進めることができた。また、感染した園児と接触があり感染に不安がある職員に対しては適宜、園としてPCR検査や抗原検査を受けていただくことができた。

